

子どもたちの未来を英語で笑顔に
つながろう！ 小学校外国語オンライン教員研修 in 宮古島市
実施要項

宮古島市立教育研究所所長 平良 善信
琉球大学科研費研究代表者 東矢 光代

1. 目的

コロナウィルスの世界的な流行によって社会の ICT 化は加速している。パンデミックにより海外への渡航を中心とした直接交流は、当分の間難しい状況が続いているが、この世界的に共通する課題を通じ、ICT によるグローバル化も急速に加速している。この波はアフターコロナ時代のニューノーマルになるものと思われ、未来に生きる若い世代にとって英語によるコミュニケーション力の育成は、ますます重要なものになる。

そのような中、小学校外国語科の授業にはまだまだ課題が多く、質の高い教育の確保には研修等の教員への支援が欠かせない。コロナ禍において、教員研修においてもオンライン化が日常化しており、コロナ収束後も ICT の利点を生かした教員研修はますます拡大していくものと思われる。日々多忙な教員にとって、オンライン研修は時間や場所を選ばない有効な手段だと考えられる一方、オンライン研修の効果や課題は十分に分析されているとは言いがたい。

本事業をとおして、宮古島市の教員の授業力や英語力向上のためには何が必要なのかを探り、オンライン研修の効果や課題を分析し、多忙な教員でもより持続的に参加しやすい、有効なオンライン研修を構築したい。特に離島の多い沖縄県においては ICT を活用した研修の開発は意義のあるものと考えられる。

2. 本事業で明らかにすること

2020 年度より小学校において新学習指導要領が全面実施になった。新しい学習指導要領に沿った新たな指導法及び指導技術の習得が求められている。新たな指導法の習得においては効率的・効果的な教員研修が求められる。そこで、本事業で明らかにしようとしていることは、①現職教員の経験や個々の信条と時流に即した研修内容は何か、②教員の意識や能力を効率的に高める ICT 研修において、オンデマンド型（動画視聴）と双方向型（Zoom によるリアル配信や対面による研修）等の最適な組み合わせはどのようなものか、③言語習得の動機づけ理論に基づいて行う研修デザインが、どのように教員の持続的な研修と能力向上に寄与するかである。

3. 研修内容（仮）

参加教員に過度な負荷をかけずに、楽しく有意義な研修となるよう、以下の研修内容を予

定しているが、具体的には、講座開始前に関係者への聞き取りや受講者のアンケート等により必要な研修内容について検討する。アンケートの結果によっては講座内容の変更も予定している。なお1回の動画視聴（オンデマンド型）は20～25分で構成し、内容を深めるための講師との意見交換の回（オンライン双方向型）では45分を予定している。また、宮古島市での対面型の講習会や授業研究会も予定している。

回	講座内容	講師		視聴時期
1	言語活動で授業を充実させよう	大城賢	動画視聴	9月下旬
2	Small Talk を楽しもう	大城賢	動画視聴	10月初旬
3	教材・教具を味方にしよう	大城賢	動画視聴	10月初旬
	講座を視聴して（意見交換）	大城賢	オンライン	10月中旬
4	指導と評価の一体化とは何？	大城賢	動画視聴	10月下旬
5	思考・判断・表現の評価をどのように？	大城賢	動画視聴	10月下旬
6	ふり返りを活かした学習/指導改善を	大城賢	動画視聴	11月初旬
	講座を視聴して（意見交換）		オンライン	11月初旬
7	小学校外国語で必要な英語力とは？	大城賢	動画視聴	11月中旬
8	授業で英語を話そう	東矢光代	動画視聴	11月中旬
	講座を視聴して（意見交換）	東矢光代	オンライン	11月下旬
9	英語学習と私	東矢光代	動画視聴	12月初旬
10	動機付けを高める授業の工夫	東矢光代	動画視聴	12月初旬
	講座を視聴して（意見交換）	東矢光代		12月中旬

3. 受講者

宮古島市内の小学校教員（担任、JTE、外部講師）10名

4. 受講手続き（別紙「募集ちらし」参照）

- ①宮古島市立教育研究所において受講者の募集を行う。受講者募集は8月23日（月）から開始し、締め切りは9月20日（月）とする。
- ②受講申込はオンラインで行う。（別紙「募集ちらし」参照）

5. その他

- ①本事業は科研費（「動機づけ理論に基づく英語での授業実現のためのICT教員研修モデル構築と最適化」代表：琉球大学教授 東矢光代）による研究の一部として行う。
- ②本事業は宮古島市立教育研究所と共同で進める。
- ③本事業の成果については沖縄県教育庁宮古島教育事務所、宮古島市教育委員会、宮古島市立教育研究所と共有する。

6. 研修講師プロフィール

東矢光代（科研費研究代表者/琉球大学国際地域創造学部教授/博士）

専門は英語教育・応用言語学で、琉球大学では中高の英語教員養成の中心を担っている。長年、英語科教育法、外国語習得理論、英語科目一般を教えると同時に、英語リスニング研究で代表者として科研費（基盤研究C）を3回連続で獲得している。多読オンラインコミュニティの効果、授業録画分析なども手掛け、最近では言語教師教育分野での研究を中心に研
究を行っている。国際学会での発表も多数行っている。ICT活用の英語教育にも積極的に関わり、小学校教員対象の中学英語2種免許認定講習をはじめ、沖縄県の現職教員研修の講師も務めてきている。

大城賢（科研費研究分担者/琉球大学名誉教授/琉球大学教育学部客員教授）

専門は英語教育で琉球大学では小中の英語教員養成を担ってきた。学外では中教審初等中等教育分科会外国語専門部会委員，文部科学省研究開発学校企画評価会議委員などを歴任。平成20年度及び平成29年度告示の「小学校学習指導要領（外国語・外国語活動）並びに「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」の作成に編集協力者として関わった。文科省指定研究開発学校の指導を長年にわたり務めた。2020年度及び2021年度は文科省委託事業「先導的なオンライン研修実証事業」の監修及び講師として関わっている。

※研修講師については今後の研修講座の内容によっては追加を予定している。